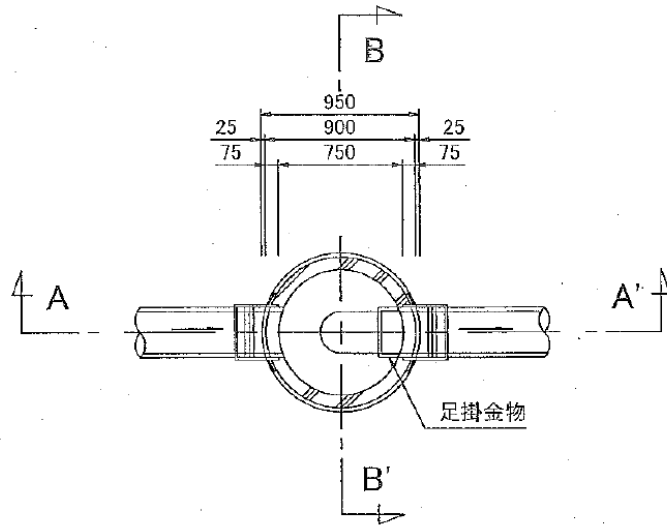
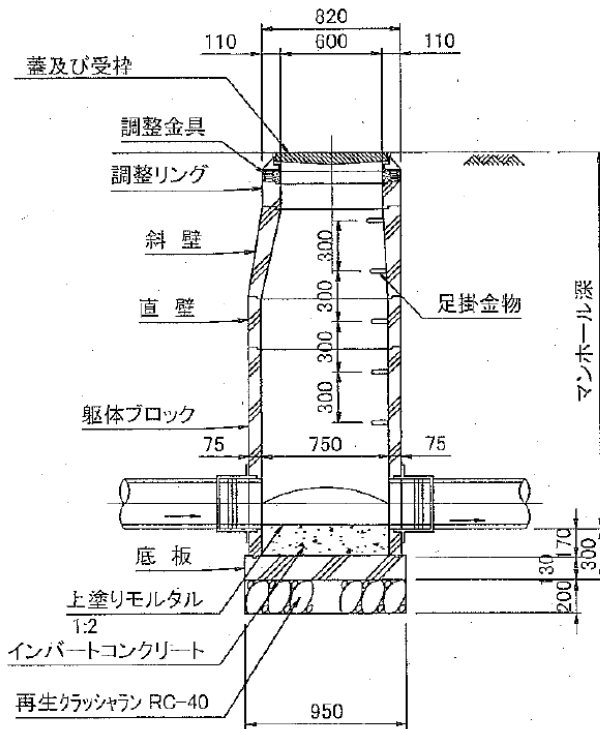


組立0号マンホール標準構造図 縮尺 1:40  
(内径75cm)

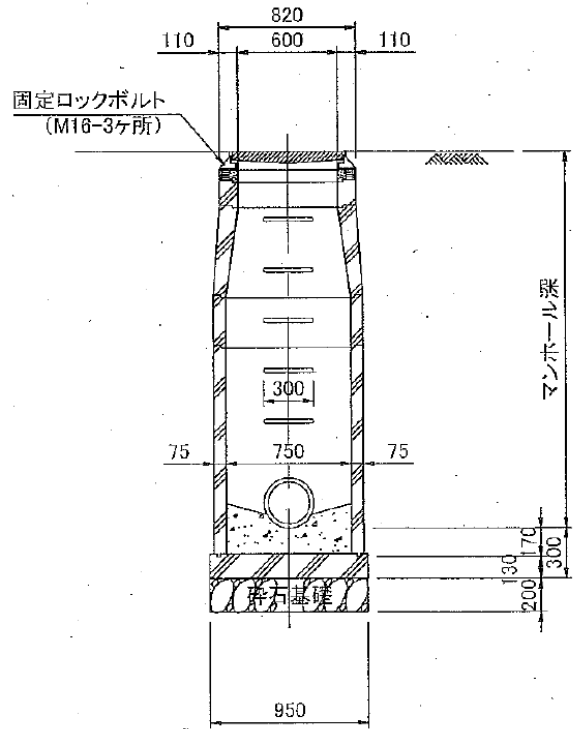
平面図



A-A' 断面図



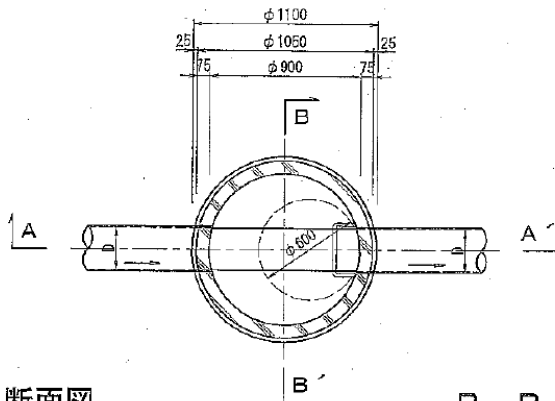
B-B' 断面図



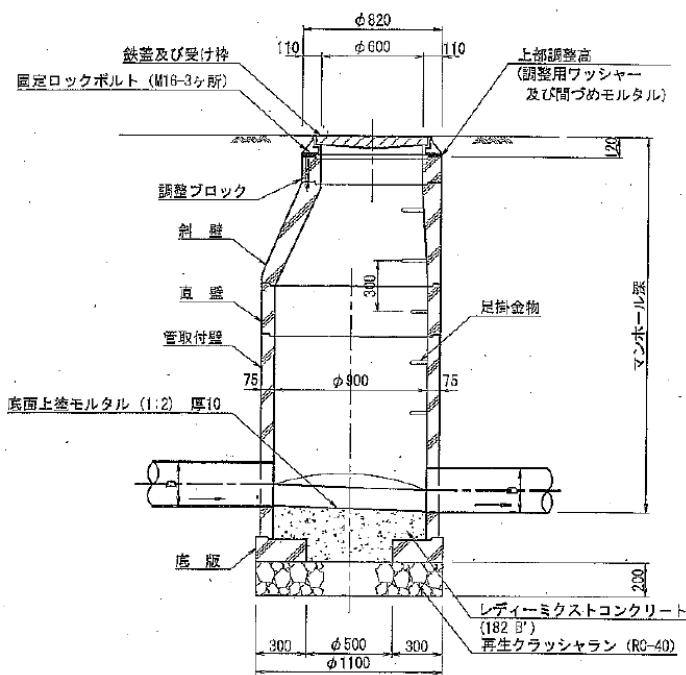
組立1号マンホール標準構造図 縮尺 1:40

(内径90cm)

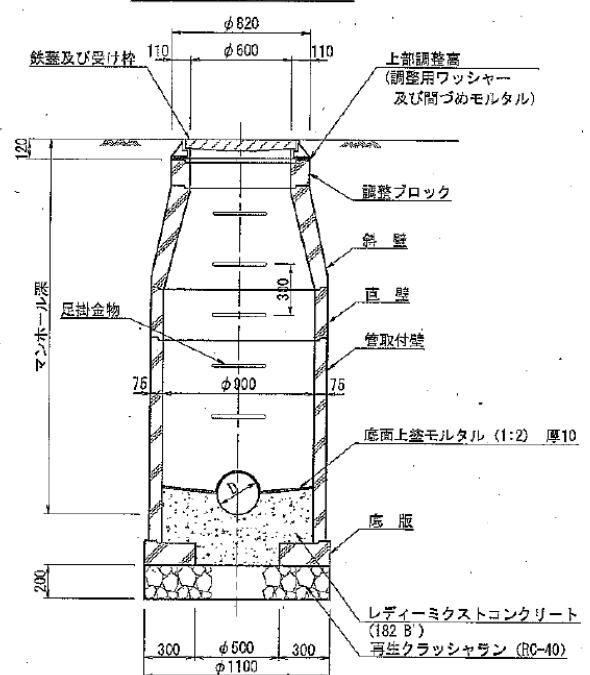
平面図



A-A' 断面図



B-B' 断面図



マンホール施工上の注意事項

【足掛金物の取付位置と間隔】

1 位置について

下流管の内径 400 mm 以下の場合：下流管の上部

下流管の内径 450 mm 以上の場合：下流管に向かって左側

※ただし、流入管（予定管も含む）がある場合は下流に向かって右側または流入管のない側

2 間隔について

通常の間隔は 300 mm、ただし上部と下部は原則として最大 400 mm 以内とする。

(1) 上部とは・・・ 翼栓螺番部の平掛けと、斜壁上部の足掛金物との間隔

(2) 下部とは・・・ ①直壁最下段の足掛金物と、下流管の管頂までの間隔（下流管の上に付ける場合）

②直壁最下段の足掛金物と、インバートまでの間隔（下流管の上に付けない場合）

③足掛金物の各区間の許容値は±10 mm とする。

④この基準は、現場打ちマンホール及び組立マンホールに適用する。

【ロック付転落防止梯子について】

マンホール深が 2.0m 以上の場合は、転落防止梯子を設置する。

【インバートについて】

1 インバートの高さは、下流管径の 1/2 とし最高 500 mm までとする。

2 インバートの縦断勾配は、下流管勾配とする。

3 インバートの幅は、下流側幅に合わせ均一とする。

4 起点マンホールのインバートは、マンホール内の端部までストレートとする。

【副管について】

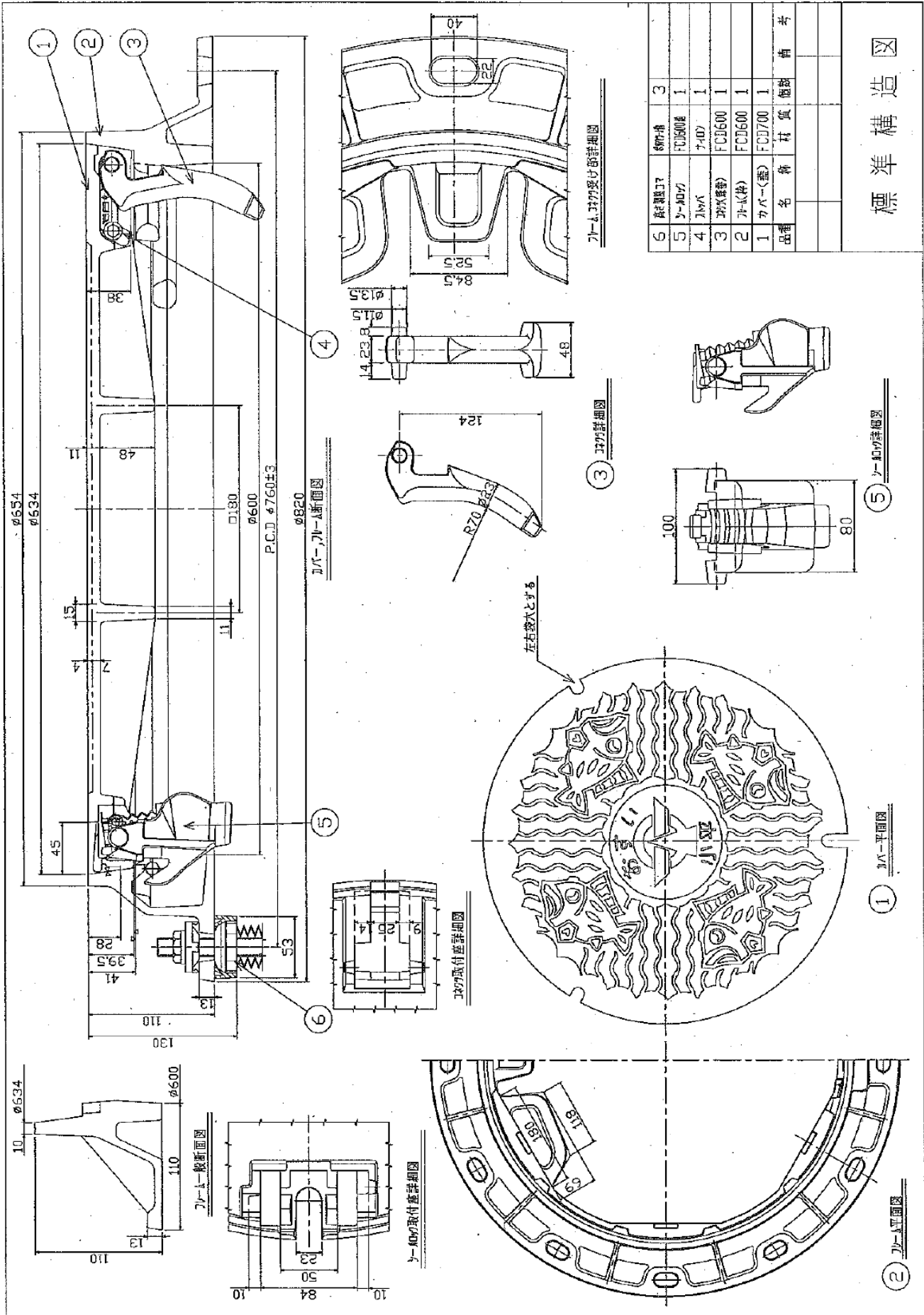
副管は本管管底差（上流と下流の管底差）が、600mm 以上の場合に設置する。







マンホール鉄蓋・鉄枠標準構造図 (分流・T-14)



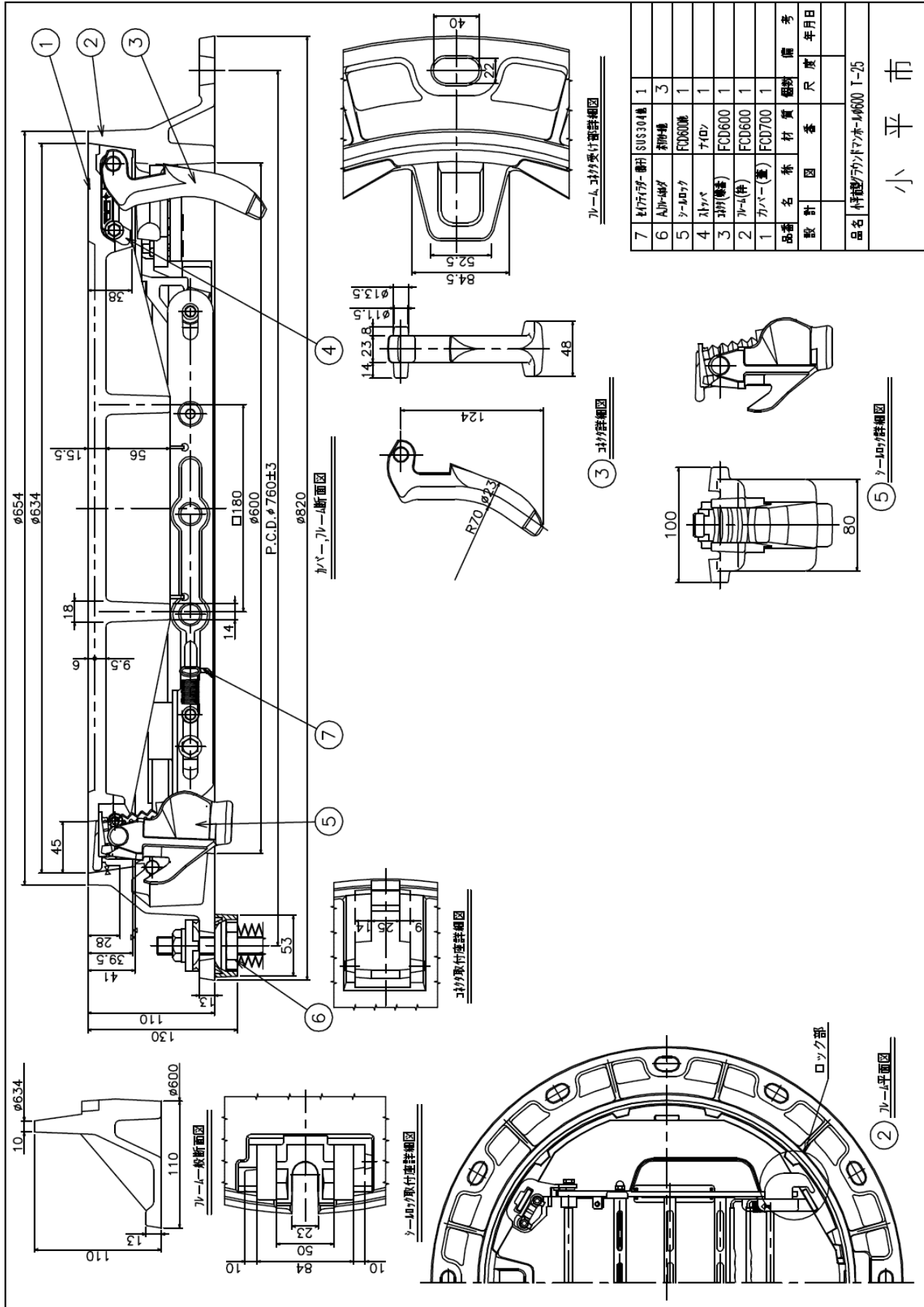
6	鉄製蓋	鉄製	3
5	フ-ADの	FCJ600	1
4	フ-カ	フ-AD	1
3	フ-カ(枠)	FCJ600	1
2	フ-カ(枠)	FCJ600	1
1	フ-カ(蓋)	FCJ700	1
品名			材料
品名			数量
品名			備考

標準構造図







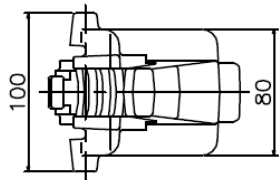


7	材料	鋼材	SUS304	1
6	加工	機械		3
5	シールド	FCD600		1
4	ナット	ナット		1
3	ナット	FCD600		1
2	ナット	FCD600		1
1	ナット	FCD700		1

小平市

品名 付録/カドマホン-M600 T-25

設計 図 査 尺 度 年 日



シールド取付座詳細図

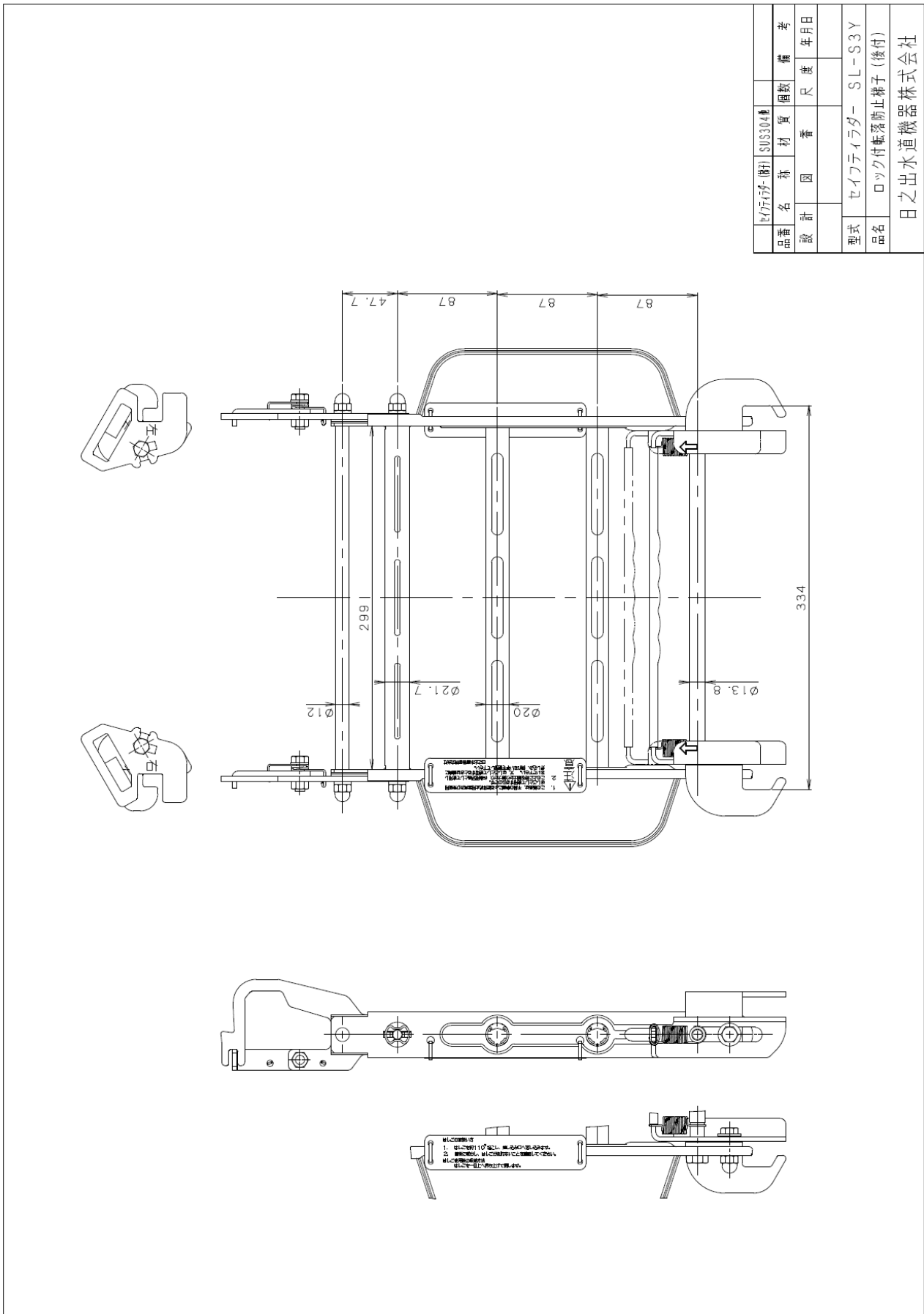
コック取付座詳細図

ナット取付座詳細図

ナット詳細図

ナット詳細図

ナット平面図

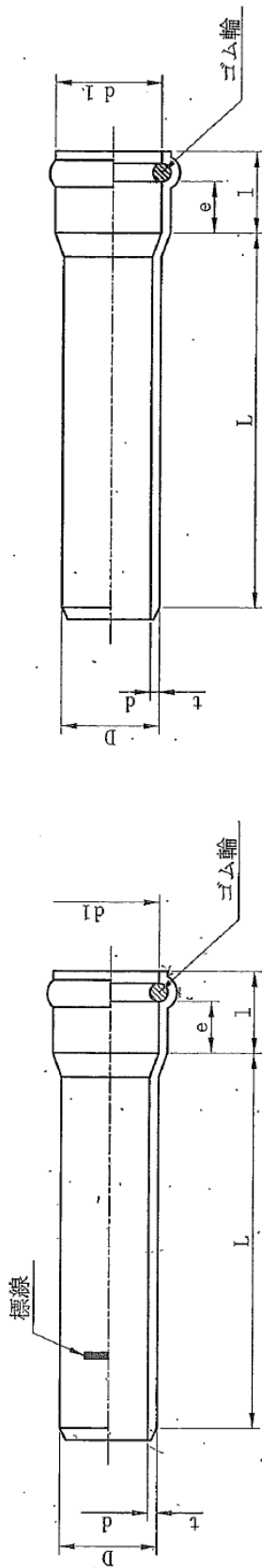


# 硬質塩化ビニル管 (VU) ゴム輪受口片受直管詳細図

(JIS K6741、JSWAS K-1)

本管形 (略号 SRA)

取付管形 (略号 SRB)



受口形状	呼び径	内径 d	長さ		外径		厚さ		受口内		受口寸法 接合長さ 受口長さ	参考質量 Kg/	
			L	許容差	D	許容差	t (最少)	許容差	受口長さ	受口長さ			
本管形 SRA	200	202.0	4,000	±15	216.0	±0.7	6.5	+1.0	216.9	54	185	27.8	
	250	250.2			267.0	±0.9	7.8	+1.2	268.1	59	205	41.3	
	300	298.2			318.0	±1.0	9.2	+1.4	319.3	62	225	58.4	
	350	347.6			370.0	±1.2	10.5	+1.4	371.5	67	240	77.3	
	400	394.8			420.0	±1.3	11.8	+1.6	421.7	72	260	99.3	
	450	441.8			470.0	±1.5	13.2	+1.8	471.9	77	285	125.3	
取付管径 SRB	500	488.8	800 4,000	±15	520.0	±1.6	14.6	+2.0	522.1	82	305	154.2	
	600	591.6			630.0	±3.2	17.8	+2.8	633.8	93	355	233.2	
	150	154			165	±0.5	5.1	+0.8	166.0	58	108	3.7	
	200	202			216	±0.7	6.5	+1.0	218.0	69	126	16.2	
						±10							6.4
						±15							

注1 ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。

注2 ゴム輪の品質は、JIS K6353(水道用ゴム)に規定するI類Aに適合したもおを使用する。

注3 受口内計d1は、直角2方向以上の内径測定値の平均値とする。

注4 外径Dとは、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値の平均値をいう。

注5 管を切断して使用する場合は、硬質塩化ビニル(VU)プレーンエンド直管詳細図に掲載した面取りを行うこと。

# 硬質塩化ビニル管ソケット標準取付図 (JIS K 6741、JSWAS K-1)

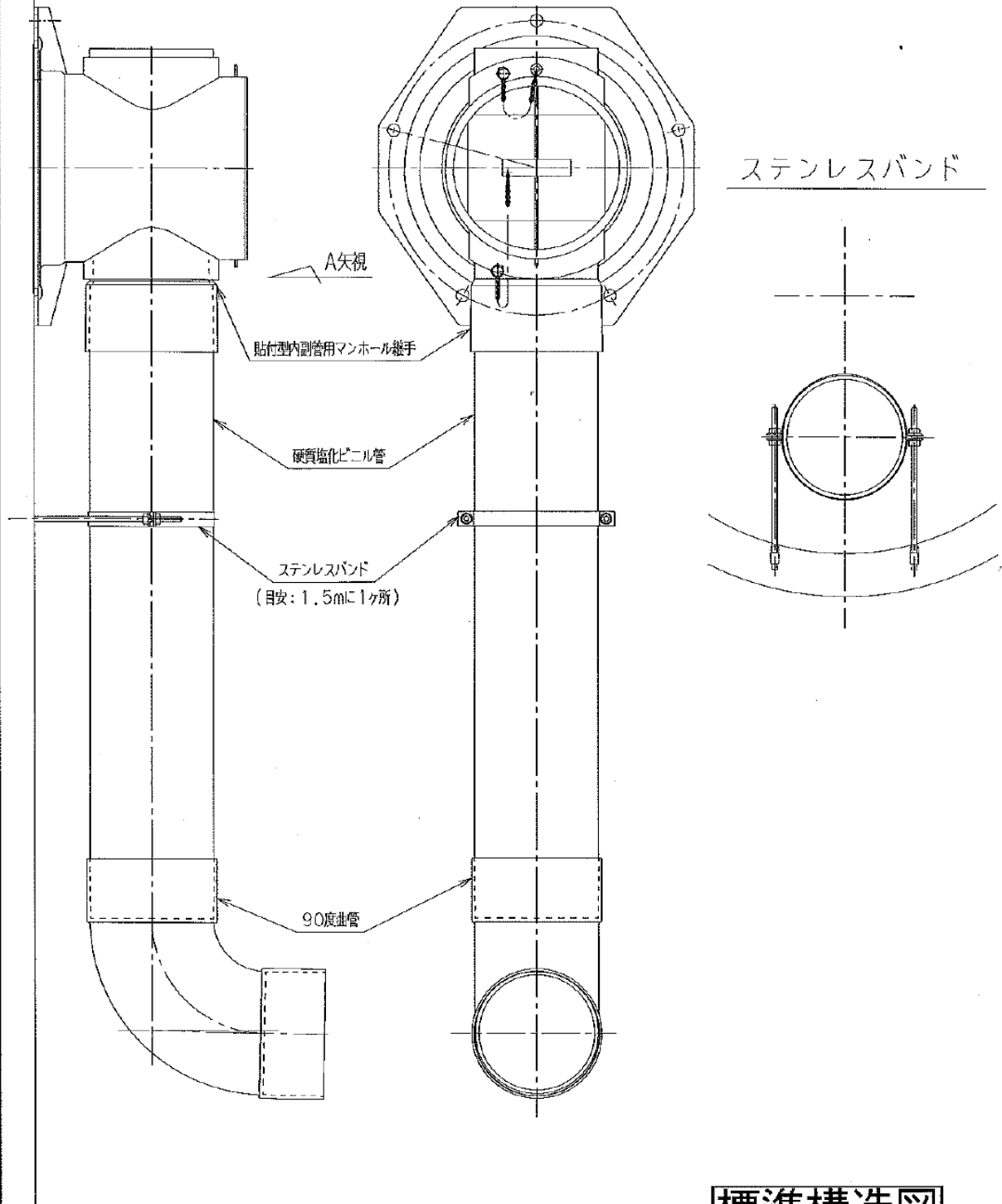
	本管が陶管または鉄筋コンクリート管の場合	本管が硬質塩化ビニル管の場合	
取付角度 60°の場合	<p>① 管に穿孔して割孔して取り付ける場合</p>	<p>② 枝付管の場合 (陶管)</p>	
取付角度 90°の場合			
接合詳細 (参考)			

# 内副管取付構造図

1号UFM250×200

縦断面図

A矢視図



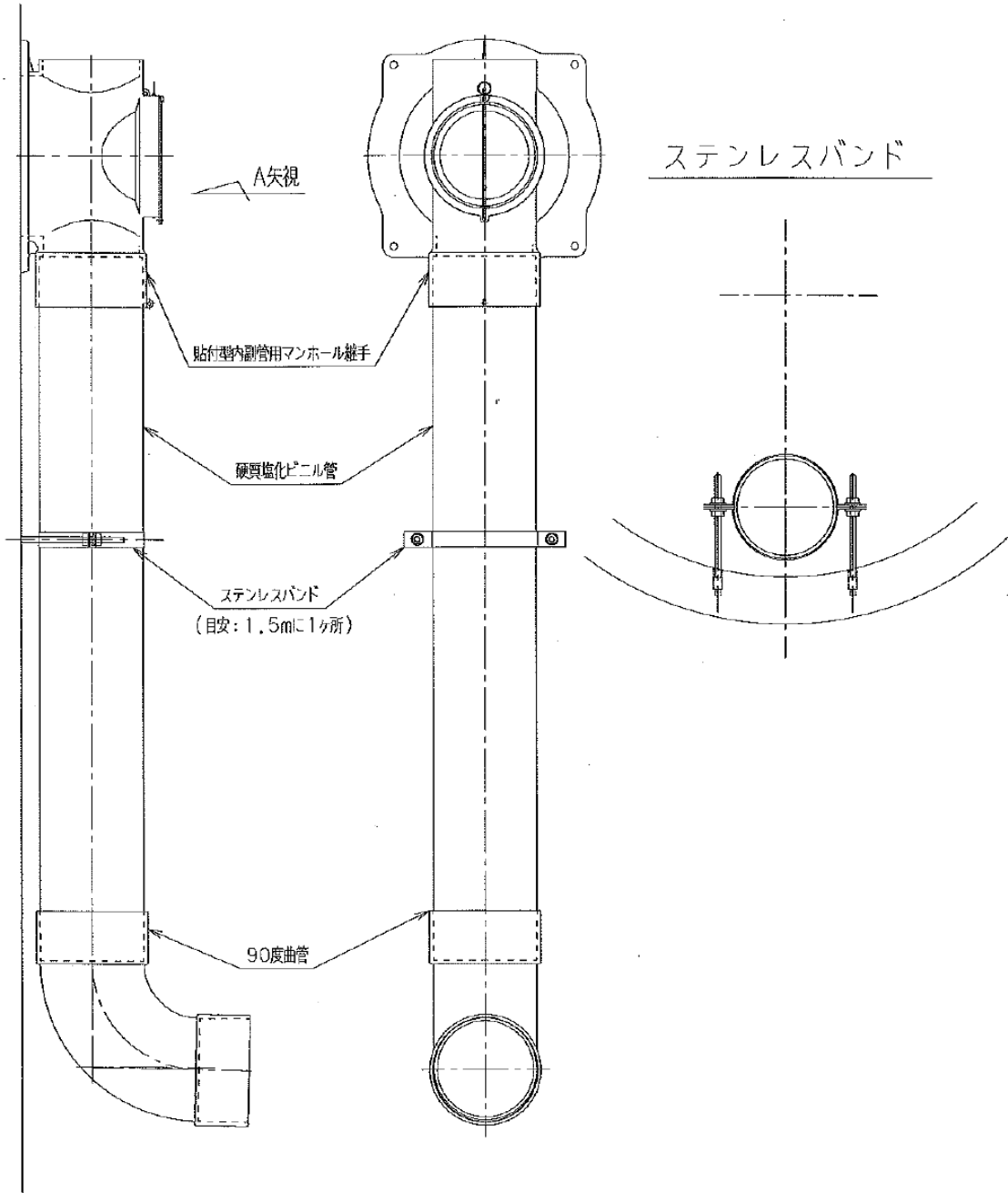
標準構造図

# 内副管取付構造図

1号UFM200×150

縦断面図

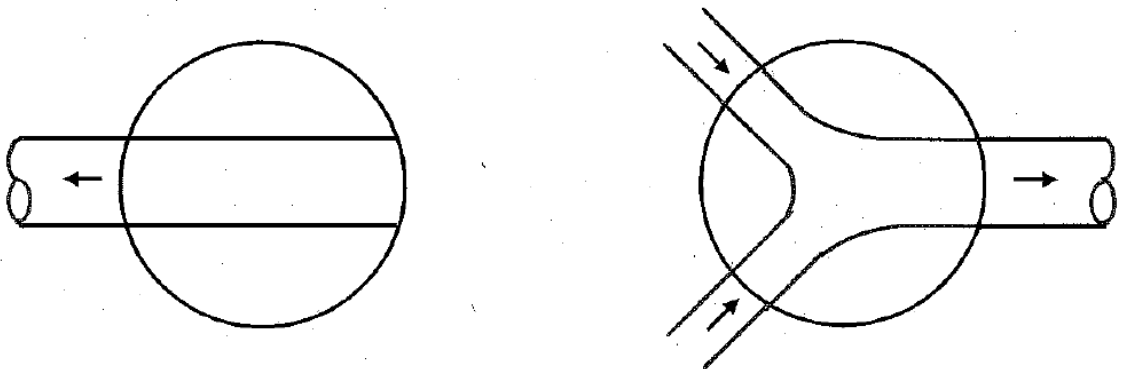
A矢視図



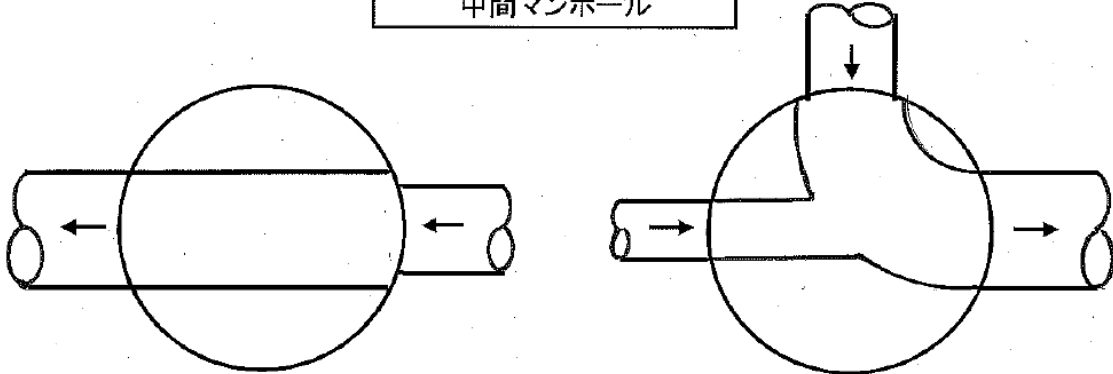
標準構造図

マンホールインバート施工標準図

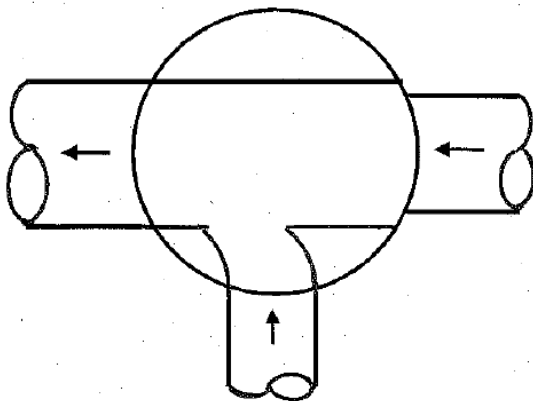
起点マンホール



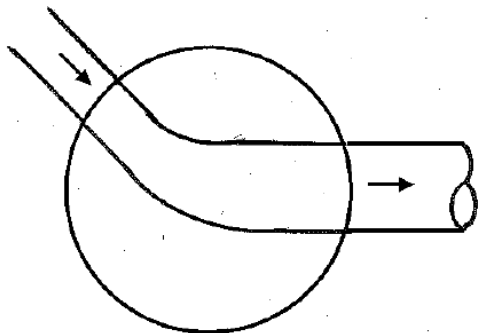
中間マンホール



会合マンホール



起点マンホール

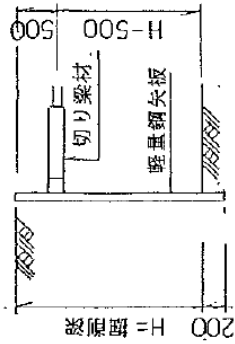


インバート施工注意点  
 ※ ラップ施工は起点マンホールの取付管のみ施工可  
 ※ 中間マンホール等では、流量の大きい方に下流管径幅でのインバートを合わせる  
 足掛金物の設置位置  
 ※  $\phi 400$ 以下は下流管上部、 $\phi 450$ 以上は下流に向かって左側  
 ただし、流入管がある場合は適宜の位置に設置する

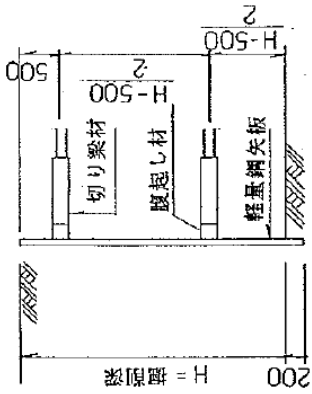
# 山留工標準図

軽量鋼矢板建込み

柵高 1.7 ~ 2.2



柵高 2.3 ~ 3.7

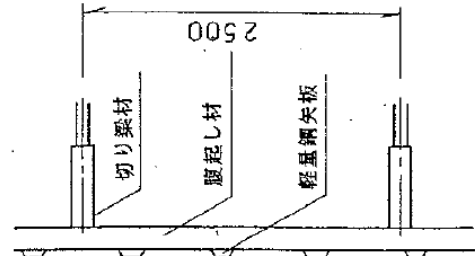
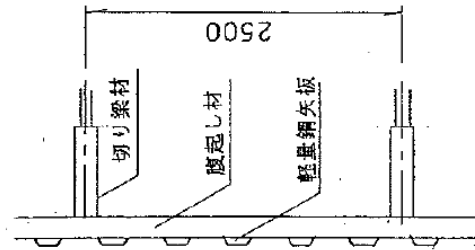
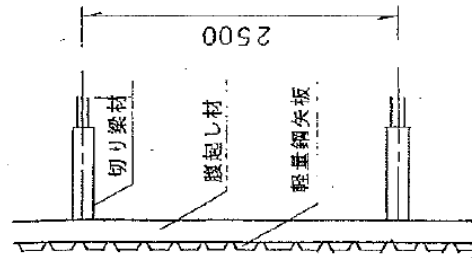
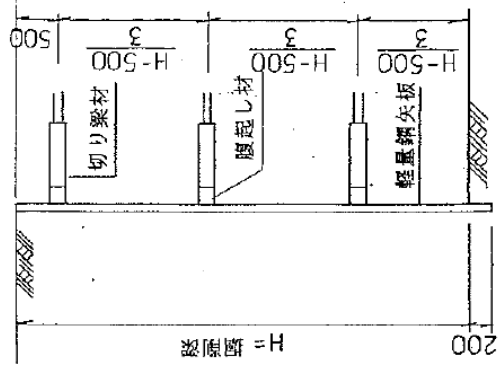


A 型

B 型

C 型

柵高 3.8 ~

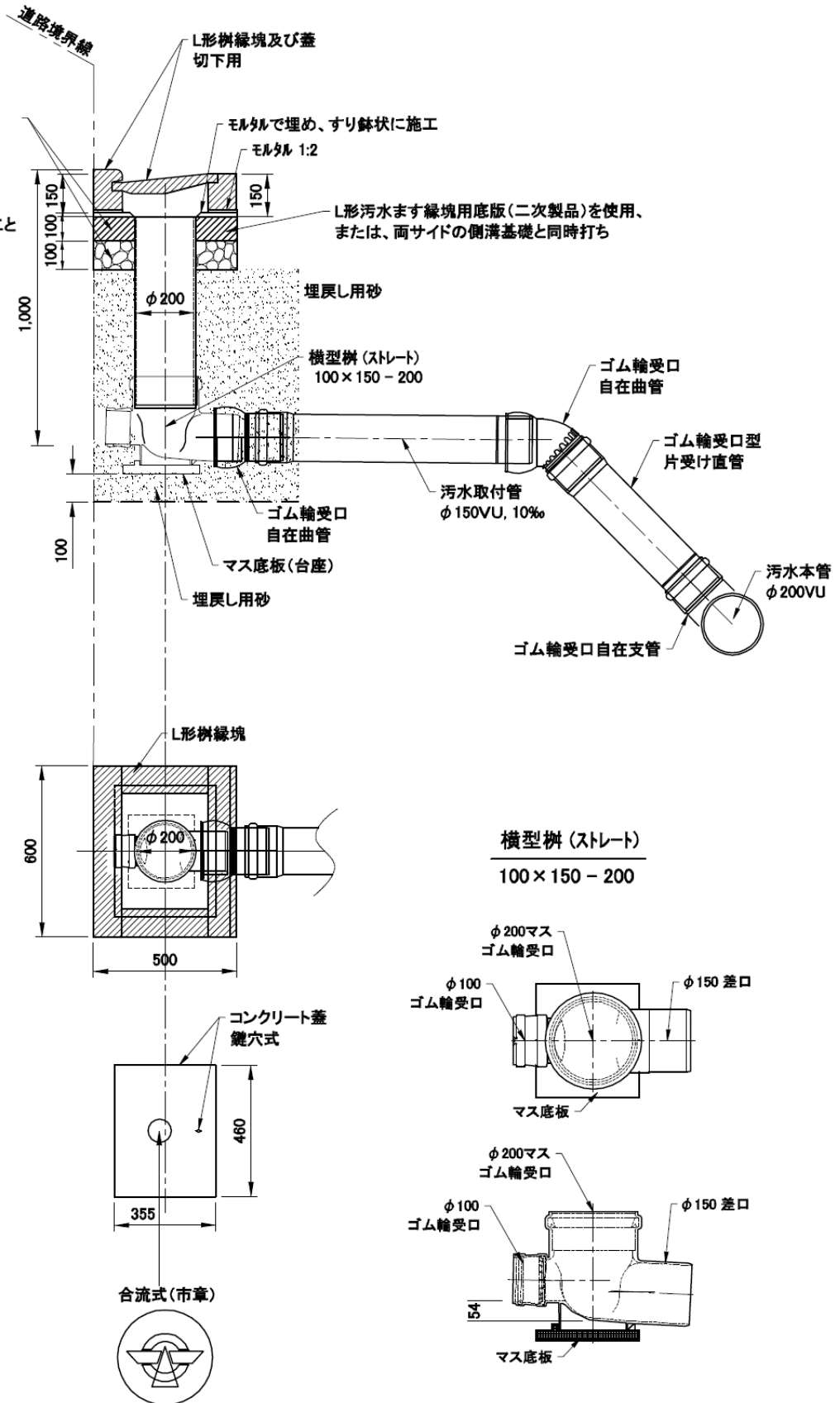




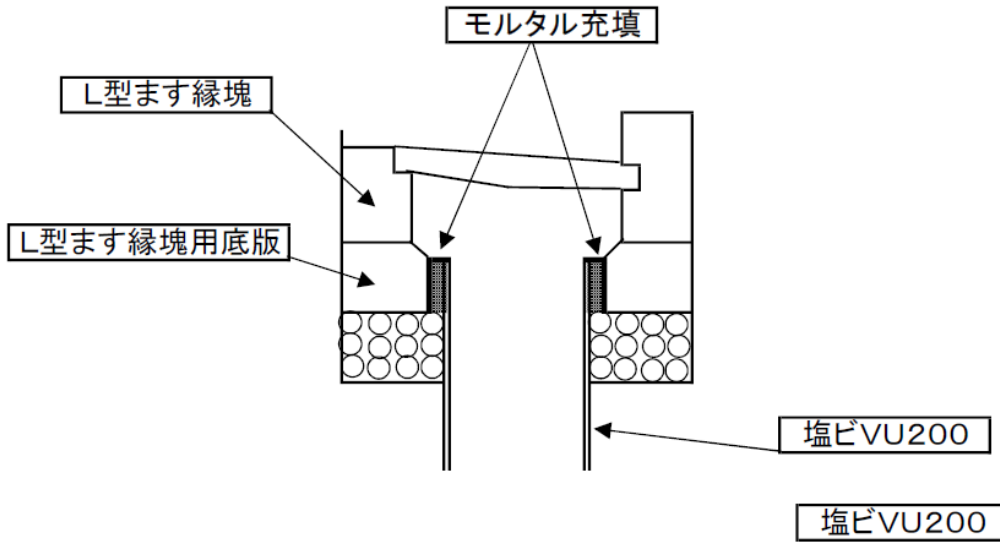
# L形用公共汚水ます標準図 合流式(小口径ます用)

A4 : S=1/20

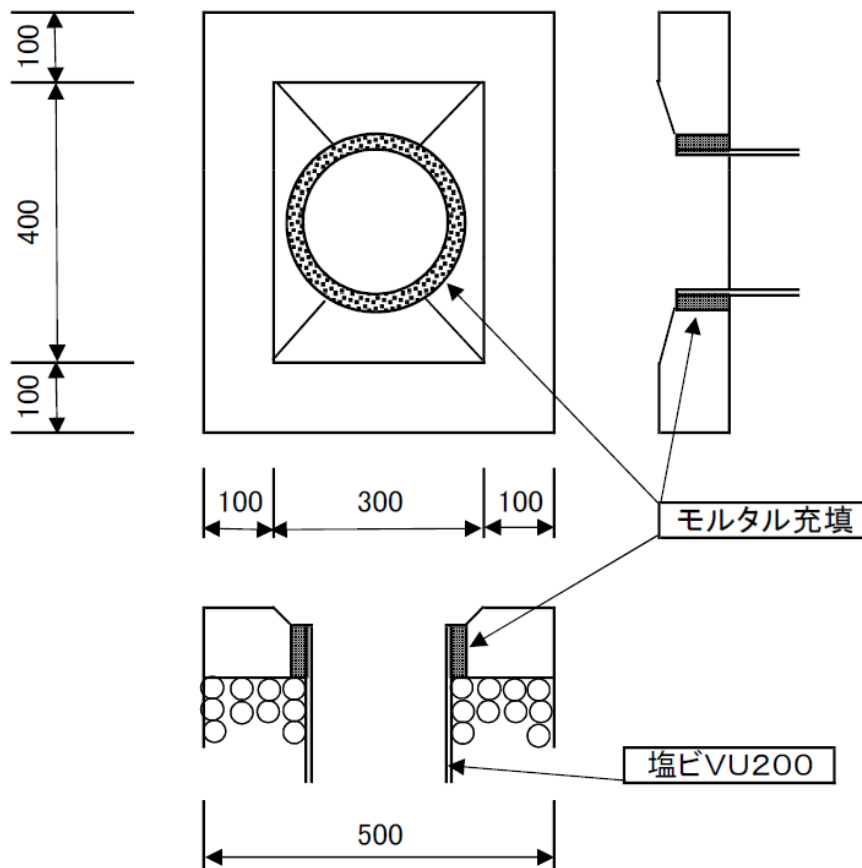
複数台の出入りがある  
場所(駐車場)等は、  
L形側溝切り下げ部と  
同様に基礎コンクリート  
・基礎碎石の厚さを  
それぞれ200mmとすること



縁塊底板部仕上(合流用)

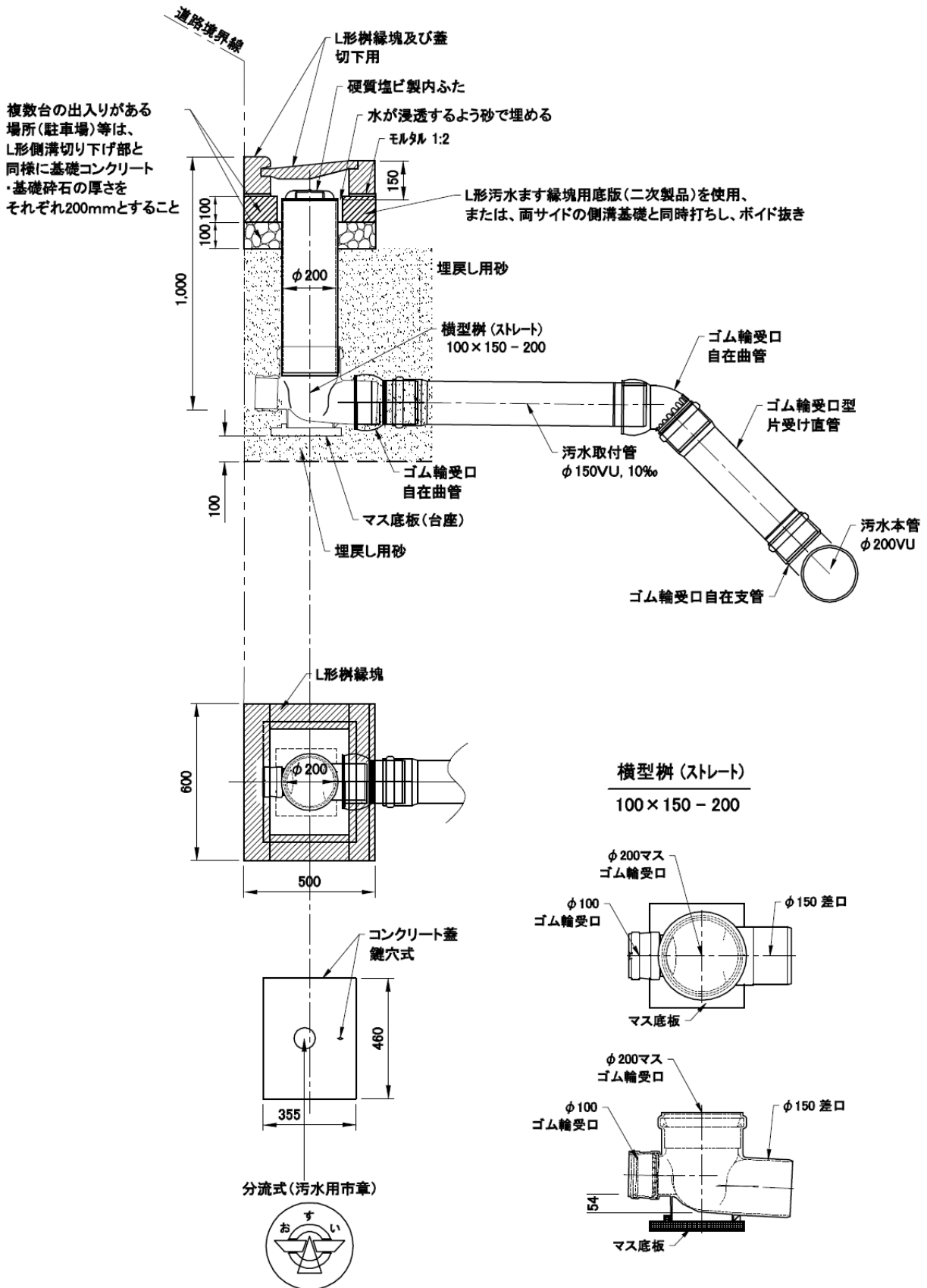


L型ます縁塊用底板

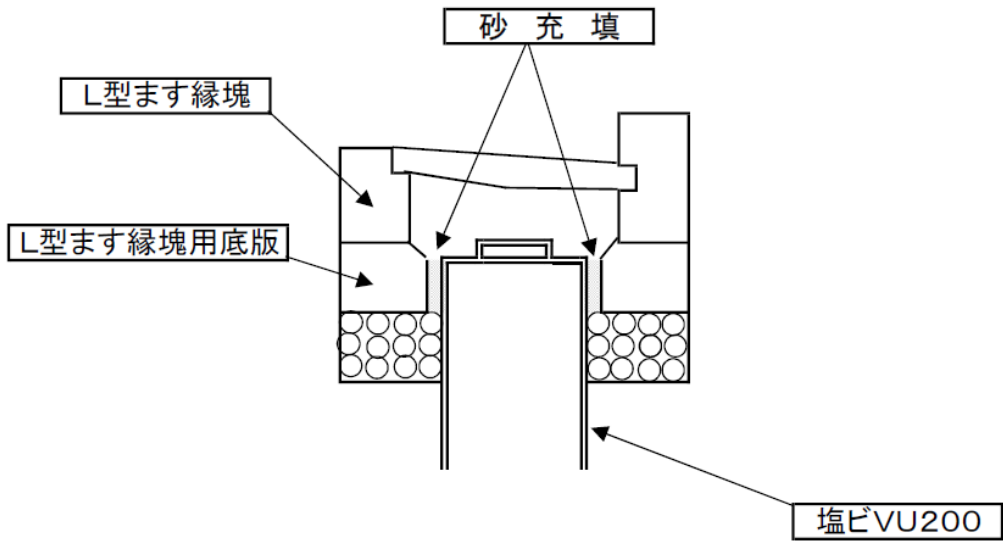


# L形用公共汚水ます標準図 分流式(小口径ます用)

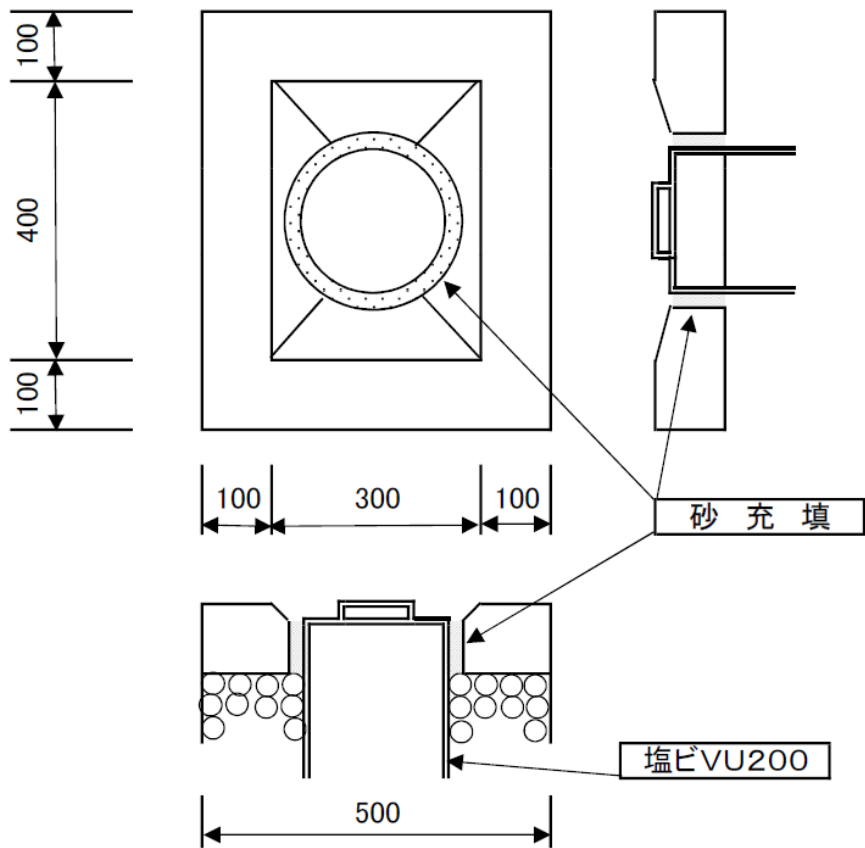
A4 : S=1/20



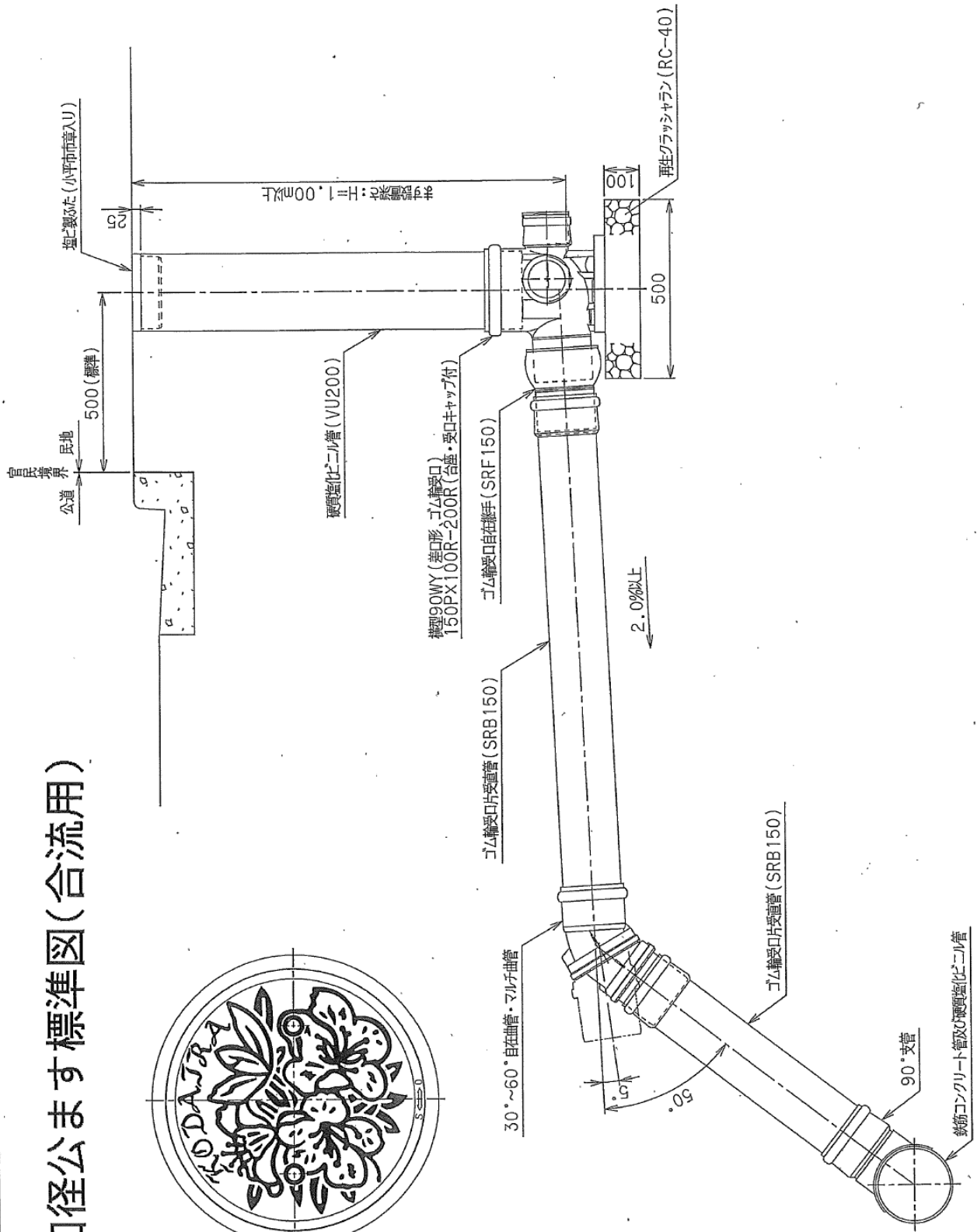
縁塊底版部仕上(分流用)



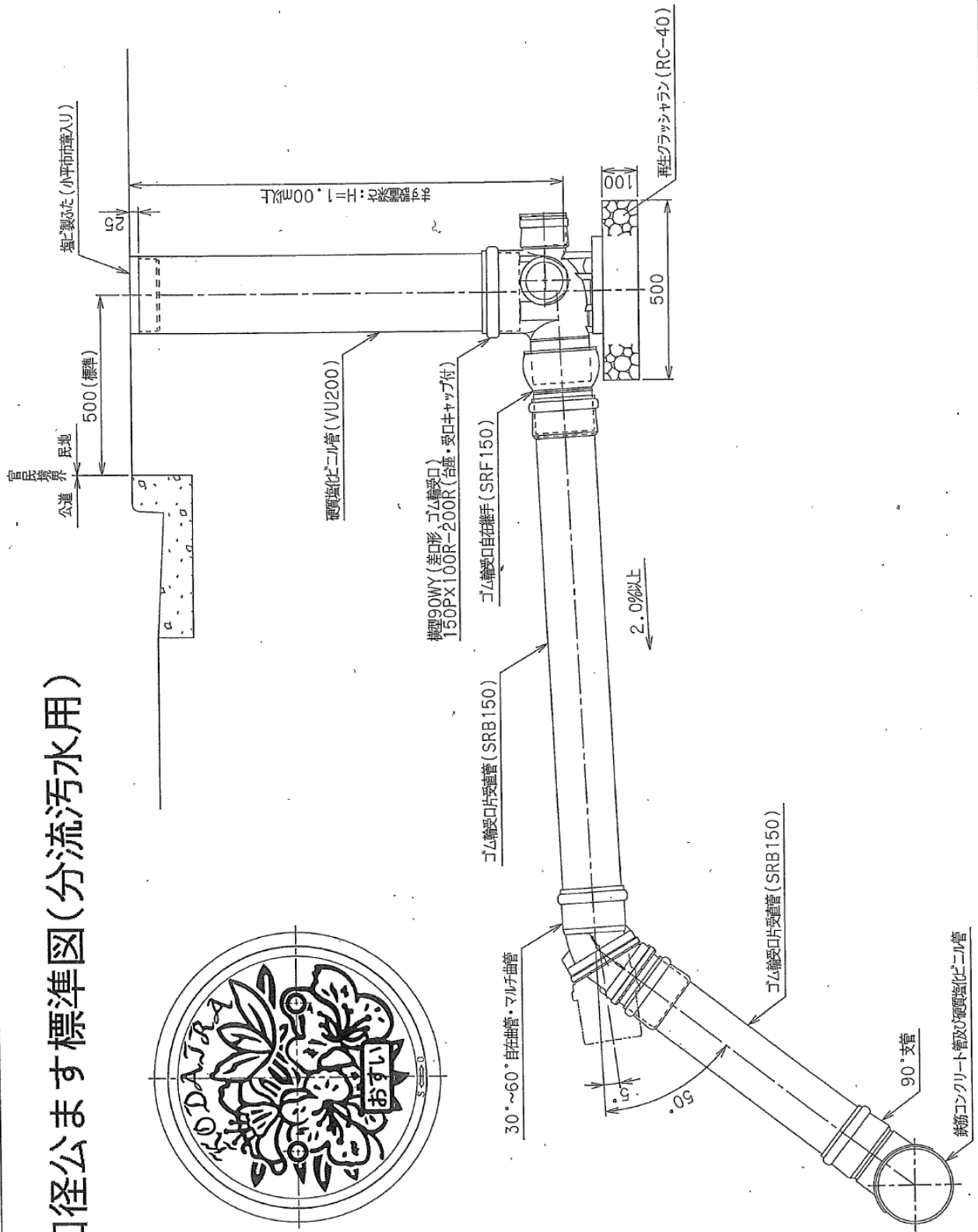
L型ます縁塊用底版



# 小口径ます標準図(合流用)

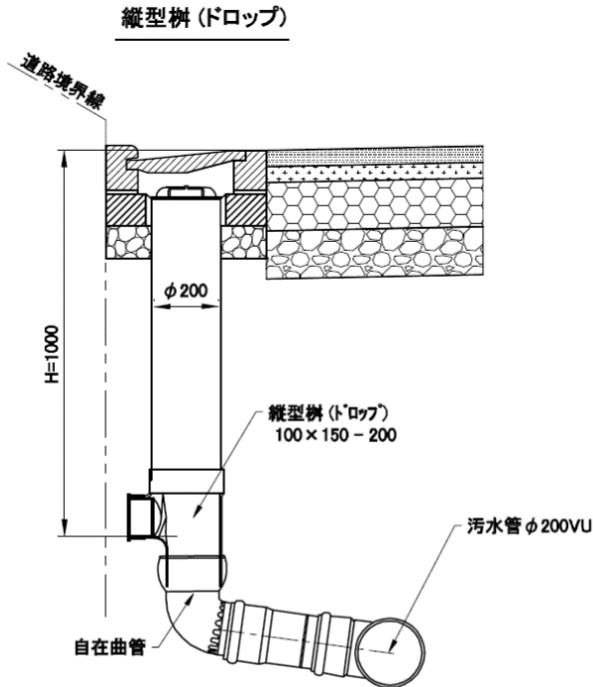


# 小口径公ます標準図(分流汚水用)

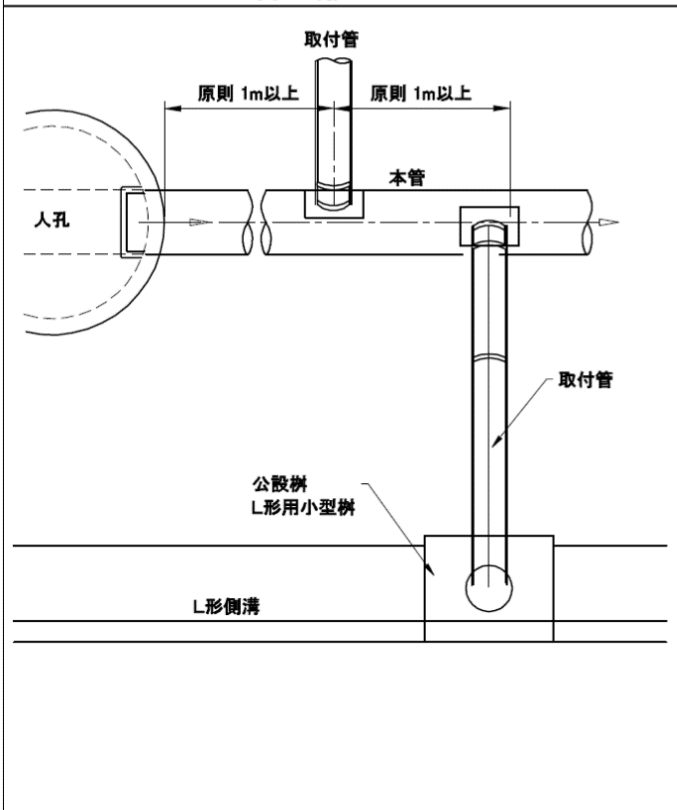


# L形用公共汚水ます (底部有孔)

A4 : S=1/20

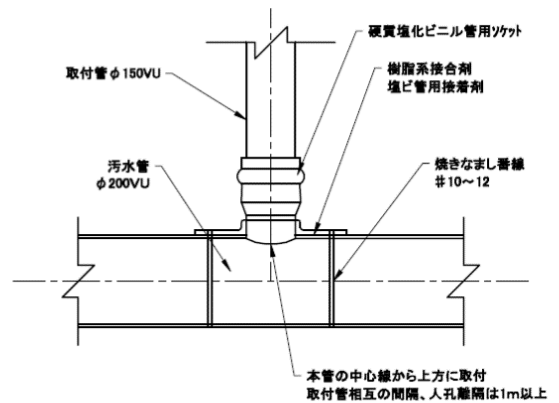


## 取付管の離隔について



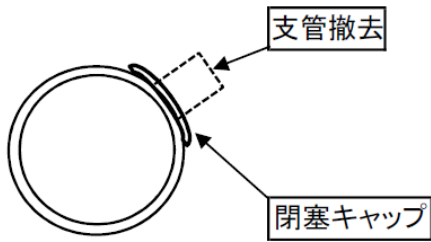
## 硬質塩化ビニル管支管標準取付図

本管が硬質塩化ビニル管の場合(取付角度90°)  
 ※接続箇所に応じて80°支管にて施工。



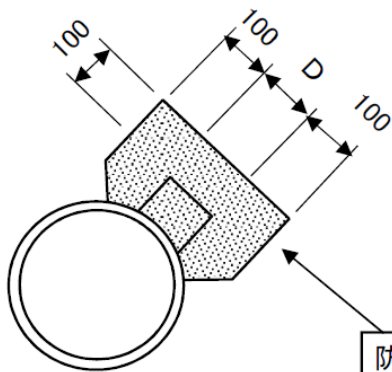
# 取付管撤去閉塞標準図

## 本管がHPの場合



①原則として、HP本管から支管を外し閉塞キャップにて穿孔穴を閉塞し、アンカーボルトもしくは焼きなまし番線で固定する。

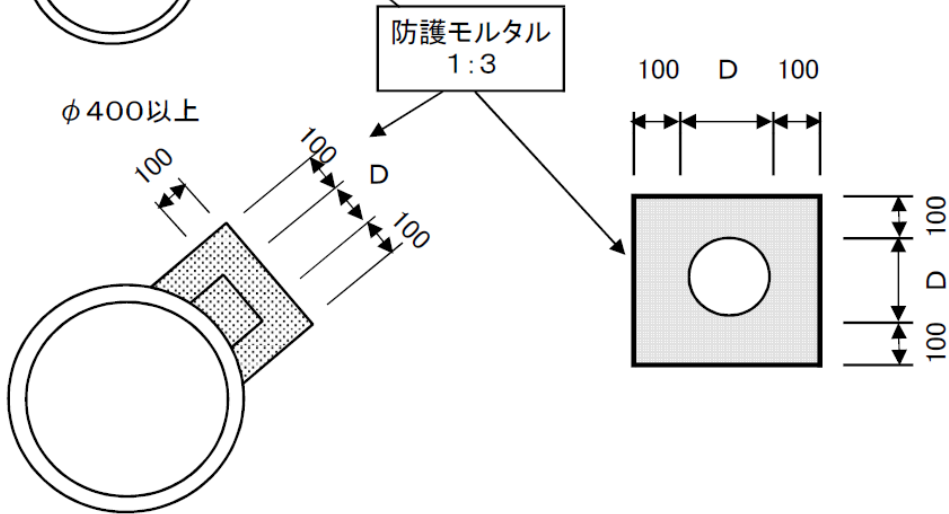
φ 350以下



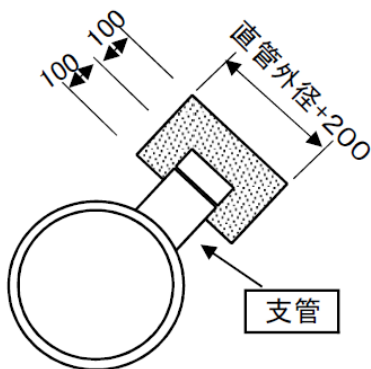
②やむを得ない理由があり、支管を外せない場合は、陶管用キャップを設置し防護モルタルを施工する(支管が陶管の場合)。

③やむを得ない理由があり、支管を外せない場合は、塩ビ管の蓋を設置し防護モルタルを施工する(支管がVU管の場合)。

φ 400以上



## 本管がVUの場合



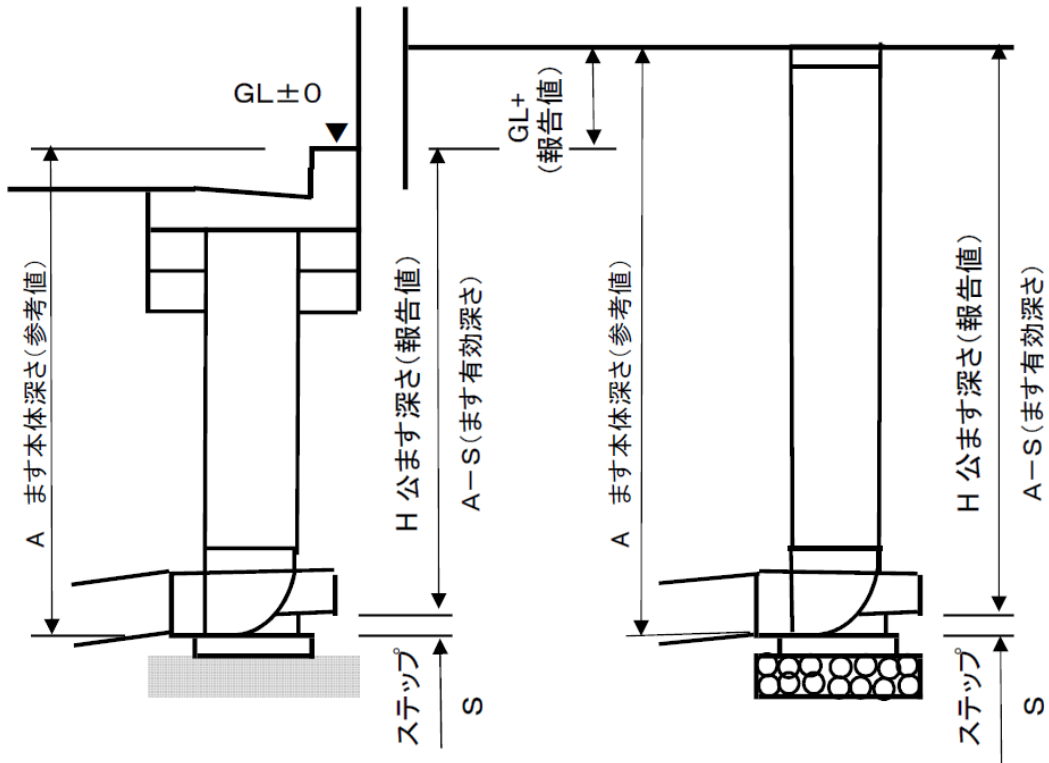
既設支管が外れないため、直管を15cm以内の位置で切断し塩ビ管の蓋を設置し防護モルタルを施工する。

### 注意事項

いずれの場合においても、施工内容の詳細が分かるよう、施工前、施工中、施工後等の写真を必ず撮影し提出すること。



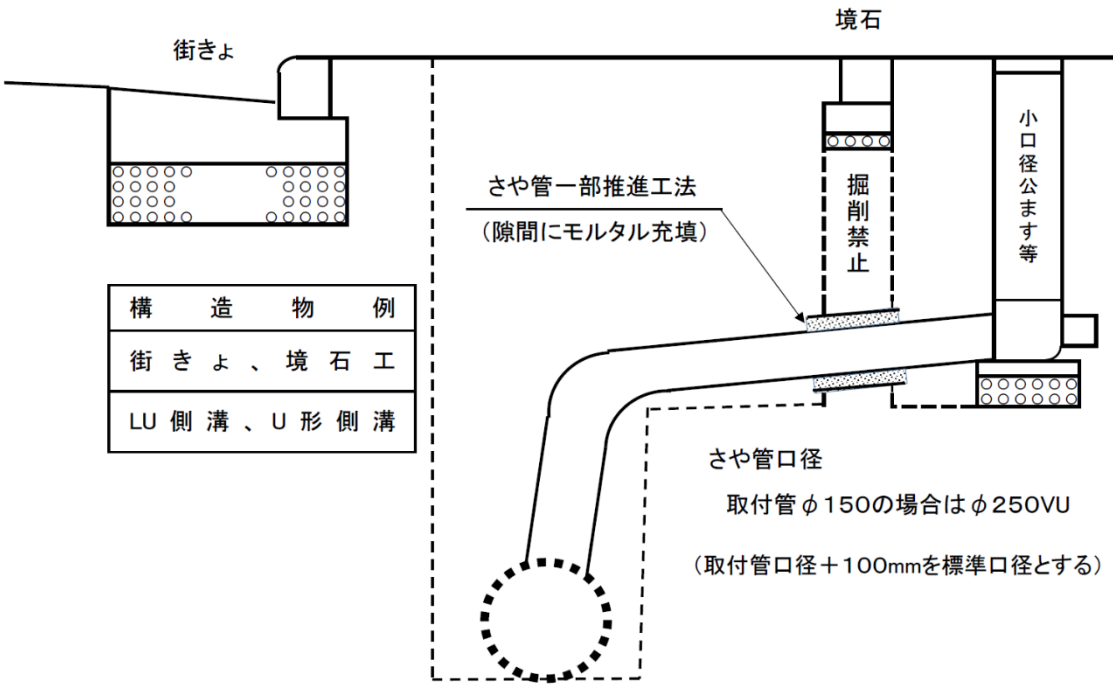
# 公共ます深さ測定要領



※公ます深さ H  
L形天端から流入管管底までの  
数値をL形公ますの深さとして  
報告する。

※公ます深さ H(ます有効深さ)  
ます天端から流入管管底までの数値  
※GL+ (GLからます天端までの数値)  
(例)GL+0.30 ます深さH=1.30

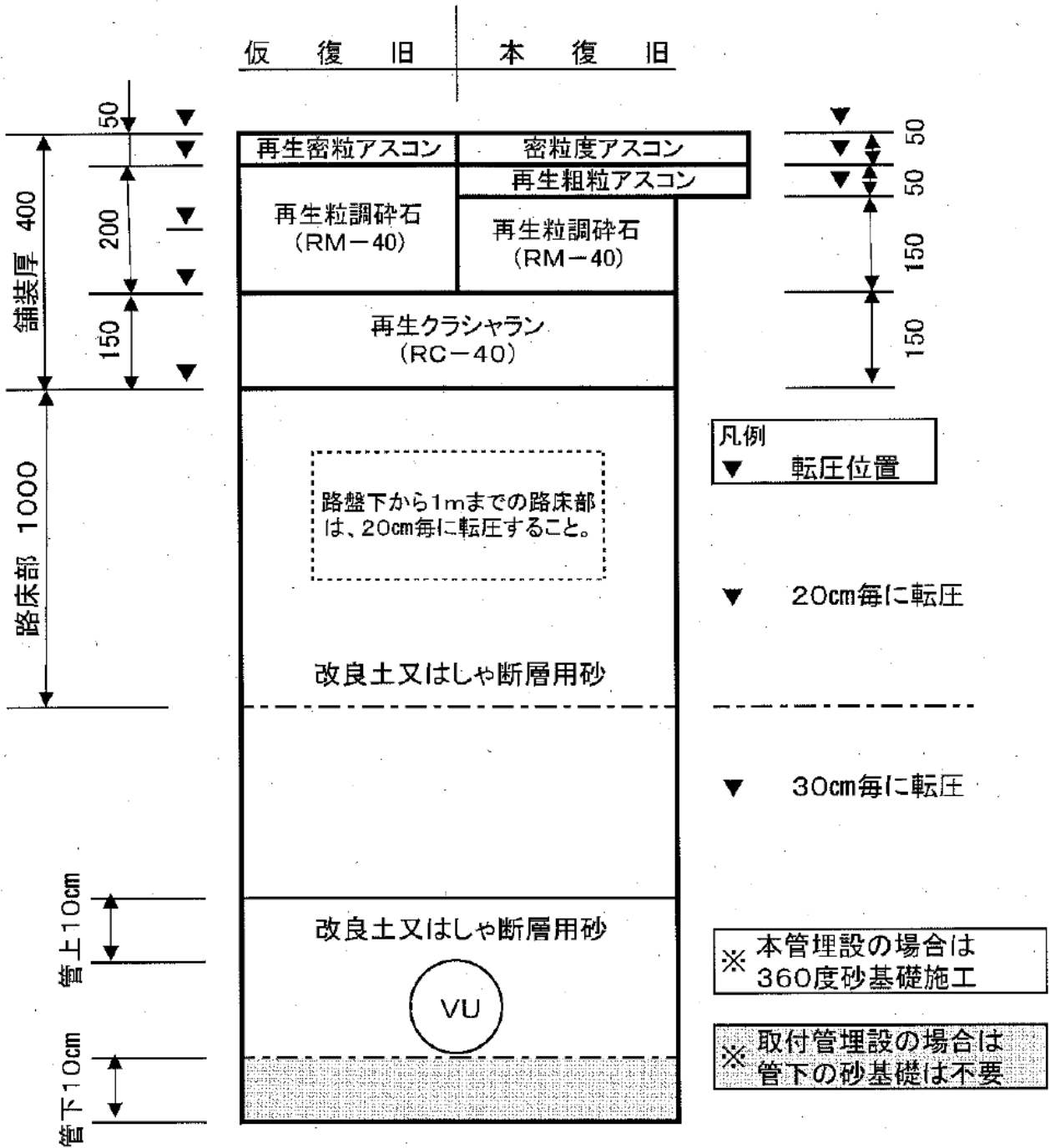
# 取付管の構造物下越し標準施工例



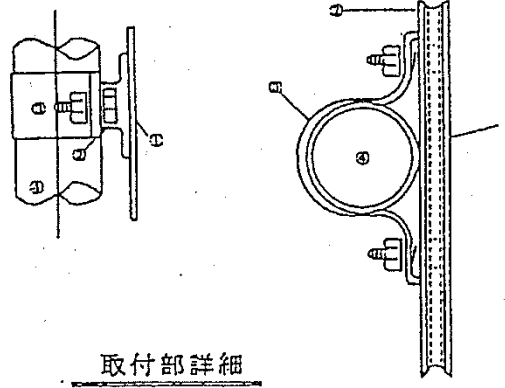
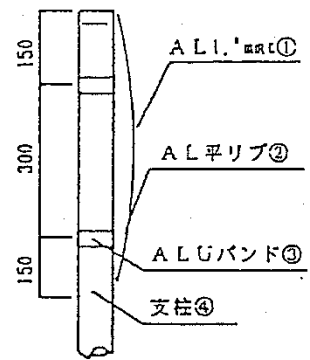
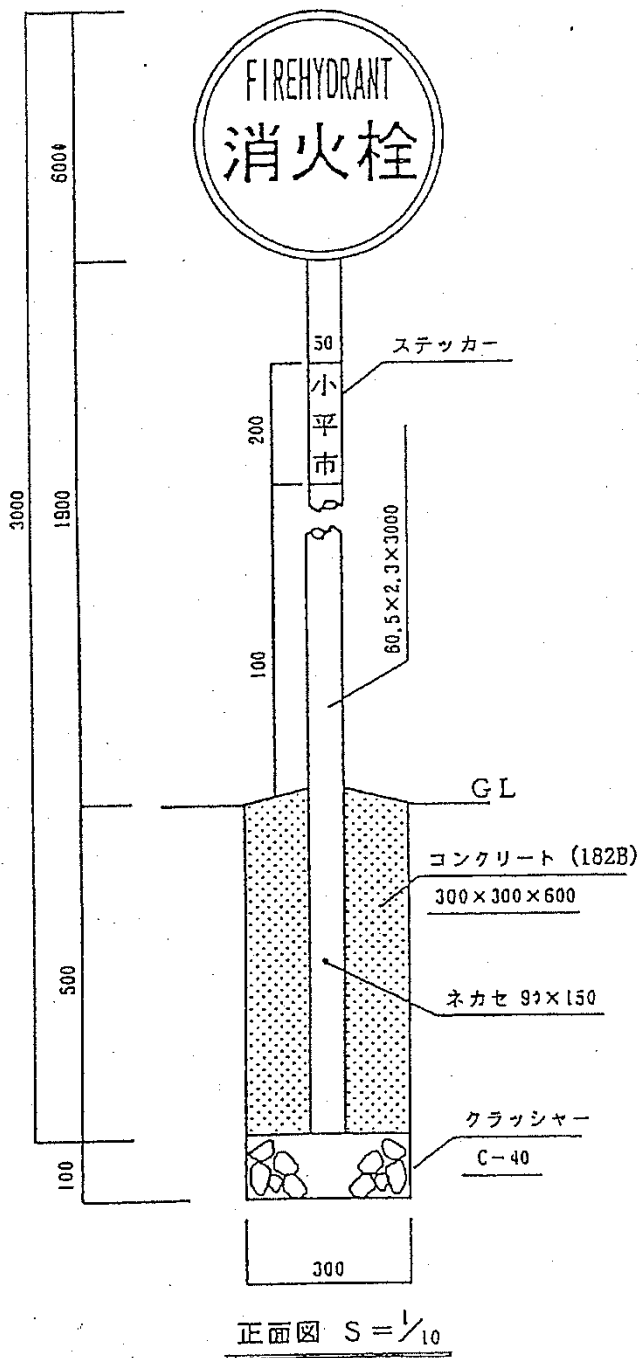
構 造 物 例
街 ぎ よ 、 境 石 工
LU 側 溝 、 U 形 側 溝

# 埋め戻し転圧要領

(例・車道舗装40型)



# 消防水利標識図（標準図）



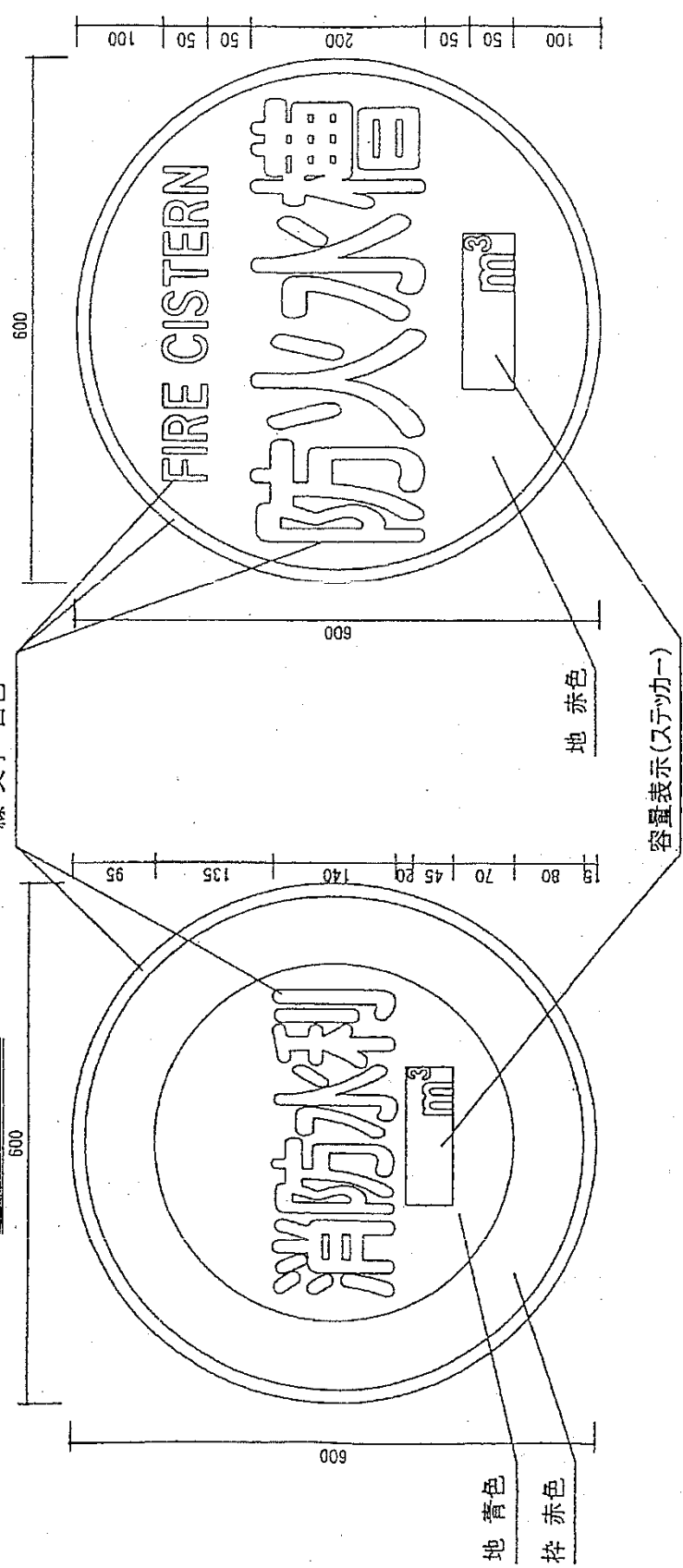
# 水利標識設計図

## 省令標識

事業主管理標識

## 統一標識

市管理標識



- 容量表示の仕様 (単位:mm)
- 1 ステッカーの大きさ (縦60×横150)
  - 2 文字の大きさ等 地-白色 文字-黒色  
(数字:縦50×横20) (m<sup>3</sup>:縦50×横45)

単位 (mm)

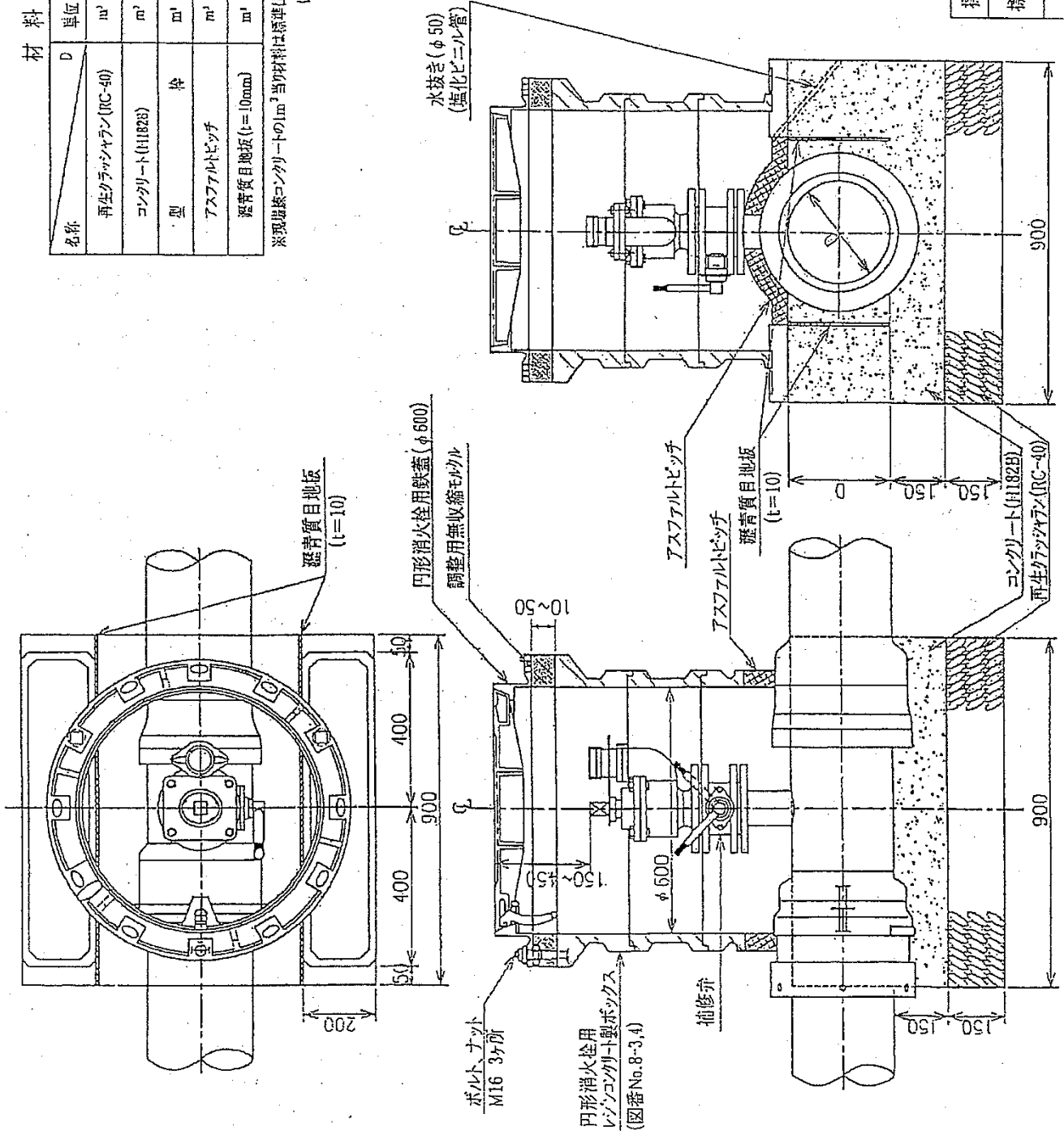
材料表

名称	D	単位	100	150	200	250
再生クワッチャラン (RC-40)		m <sup>3</sup>	0.122	0.122	0.122	0.122
コンクリート (H182B)		m <sup>3</sup>	0.216	0.256	0.296	0.336
型枠		m <sup>2</sup>	1.483	1.644	1.796	1.942
アスファルトビッチ		m <sup>2</sup>	0.002	0.002	0.002	0.002
遮音質目地板 (t=10mm)		m <sup>2</sup>	0.212	0.304	0.396	0.489

※現標準コンクリートの1m<sup>3</sup>当り材料は標準仕様書を参照のこと。

備考)

- 呼び径 (D)100~250に適用する。
- 基礎コンクリートは管頂まで打設した後、一定の養生期間をとる。
- 遮音質目地板は耐力垂直に入れる。
- 管径S14形、呼び径 (D)300、350については原註図番号8-2による。
- 底版と基礎コンクリートの間はモルタル等による不陸調整を行なう。
- 各部材の接合面には、断絶がないように接合材 (工ボキレン系やウレタン系) を全面盛付ける。
- 受給高さ調整部及びボルト・ナット部には、受給変形防止部材等を使用し受給の変形を防止する。また、将来のかさ上げに備へては、ボルト・ナット及び受給変形防止部材を再利便できる措置を施すこと。(ボルトについては、かさ上げ時のみ対応できること。)
- 受給高さの調整部には無収縮モルタルを使用する。(ボルト・ナット及び受給変形防止部材に付着しないような措置を施す。)
- 無収縮モルタルの物性は、原註図番号No.8-4の行表の規定に適合するものとする。
- 調整高さが高い場合には調整リング併用により高さ調整を行う。この時、調整リングと上部壁の間はモルタルペースト等による不陸調整を行う。
- キャップ高さが150mm~450mmの間になるように補修弁と耐火管の間に調整を挿入して調整する。(短管に併用するボルト・ナットはSUS304又はSUS403とする。)
- 消火栓の階面表示 (赤色) は鉄蓋に表示してあるため不要とする。
- 水抜きは地下水位の高い場所には設置しない。



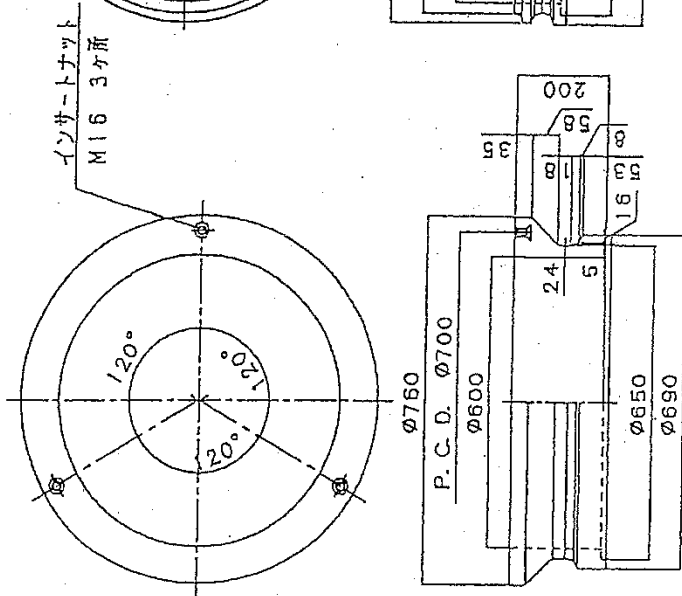
標準図番号	No.8
標準図名称	単口消火栓設置工 (75mm)

東京都水道局

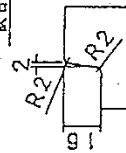




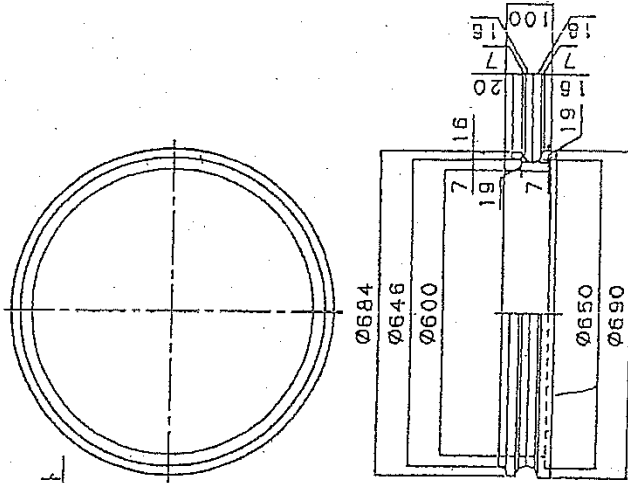
上部型 (H=200)



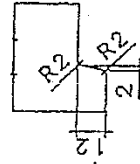
嵌合上部詳図



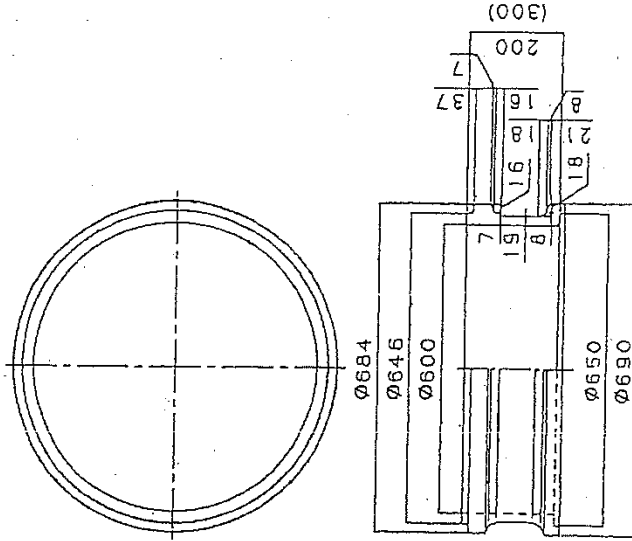
中部型 (H=100)



嵌合下部詳図



下部型 (H=200, 300)



※ ( ) 内数値はH=300用

備考) 1. 材質はレジンコンクリートとし  
品質は図番深No. 9-4付表  
の通りとする。

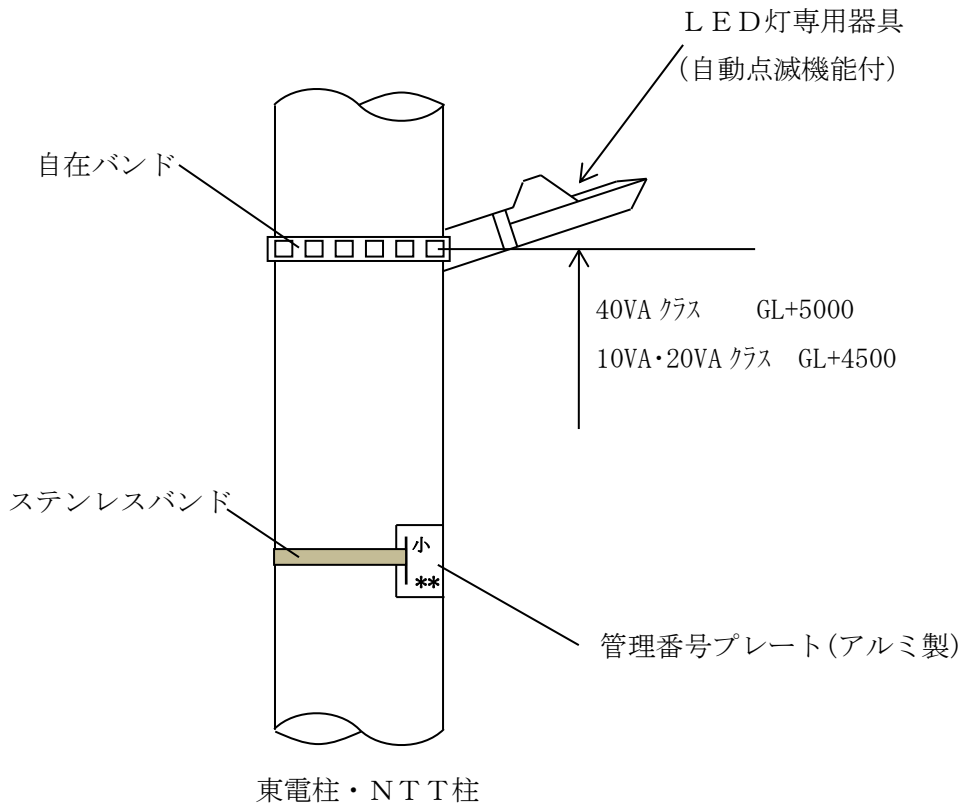
標準図番号	深No. 9-3
標準図名	円形消火栓用 レジンコンクリート製ボックス
東京都水道局	





# 街路灯標準図（電柱共架式）

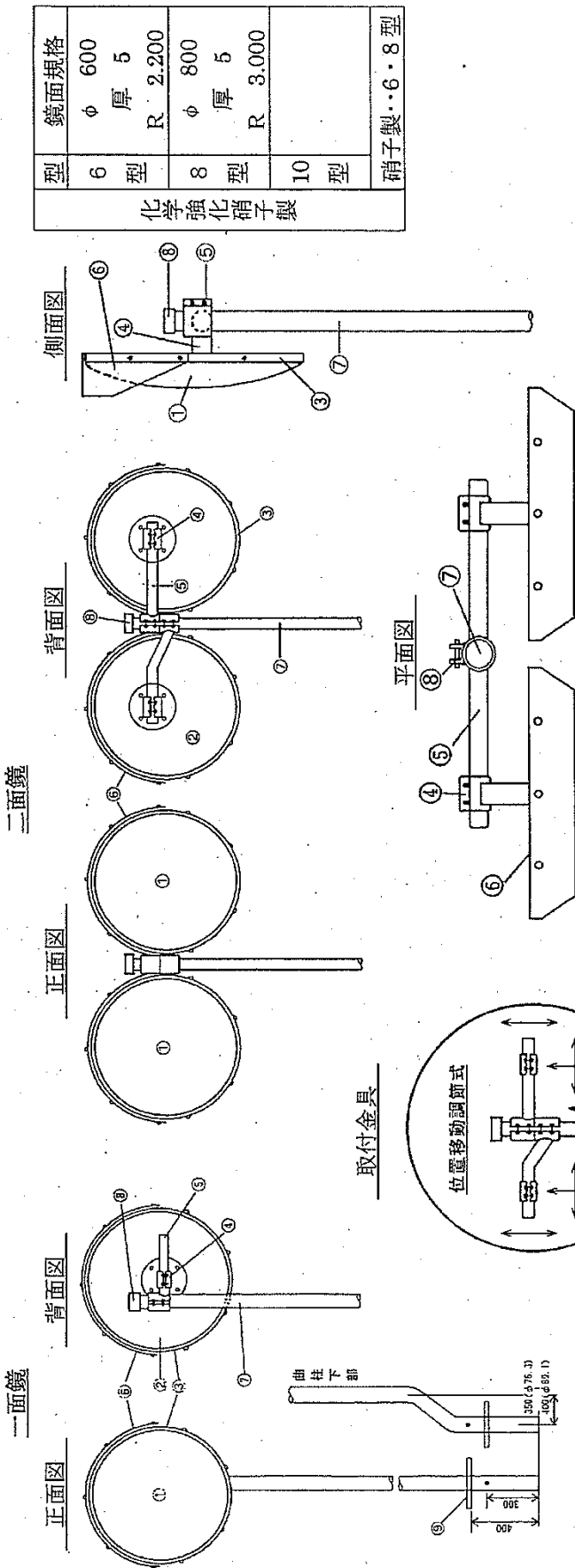
10VAクラス・20VAクラス・40VAクラス



- ※1 本図は東電柱、NTT柱への共架の場合とする。
- ※2 原則としてLED灯具は10VA相当のものとする。
- ※3 取付け高さは、10VA・20VAクラスはGL+4500mm、40VAクラスはGL+5000mmとする。ただし、他の共架物等により取付に支障がある場合は、担当の指導を受けること。
- ※4 管理プレートは担当から受領し、ステンレスバンド縁折とする。
- ※5 灯具は照度分布を確認した機種を選定するものとし、詳細については担当の指導を受けること。

# 丸型道路反射鏡 構造

## 二面鏡



## 部材表

No.	名称	材質	寸法	一面	二面
①	鏡面	化学強化硝子	各種サイズ	1	2
②	バックプレート	F R P - H	各種サイズ	1	2
③	取付金具	アルミニウム	各種サイズ	1	2
④	取付金具	STKR400/SS400	別図	1	2
⑤	取付金具	STKR400/SS400	別図	1	2
⑥	フーンド	R P	各種サイズ	1	2
⑦	支柱	S T K 4 0 0		1	1
⑧	キヤップ	合成ゴム	各種サイズ	1	1
⑨	補強鉄筋	S R 2 3 5	φ13×300	2	2

注1:「小平市」のステッカーを支柱に貼付する。

注2:小平市支給の管理プレートを支柱上部に取り付ける。

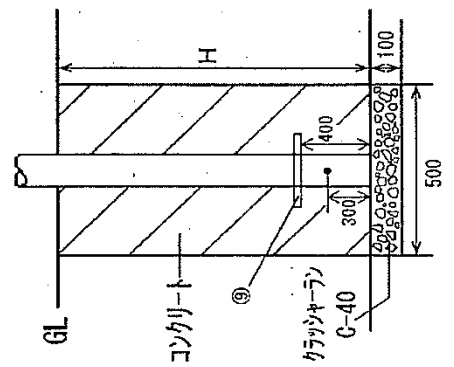
支柱規格(合成樹脂静電粉体付・下地亜鉛メッキ鋼管)  
 φ76.3×3.2×4000 φ800 一面鏡及びφ600 一面鏡用  
 φ39.1×3.2×4400 φ800 二面鏡及びφ600 二面鏡用

## 基本規格

φ600 一面鏡	500×500×900 (H)
φ600 二面鏡	500×500×1200 (H)
φ800 一面鏡	500×500×900 (H)
φ800 二面鏡	500×500×1200 (H)

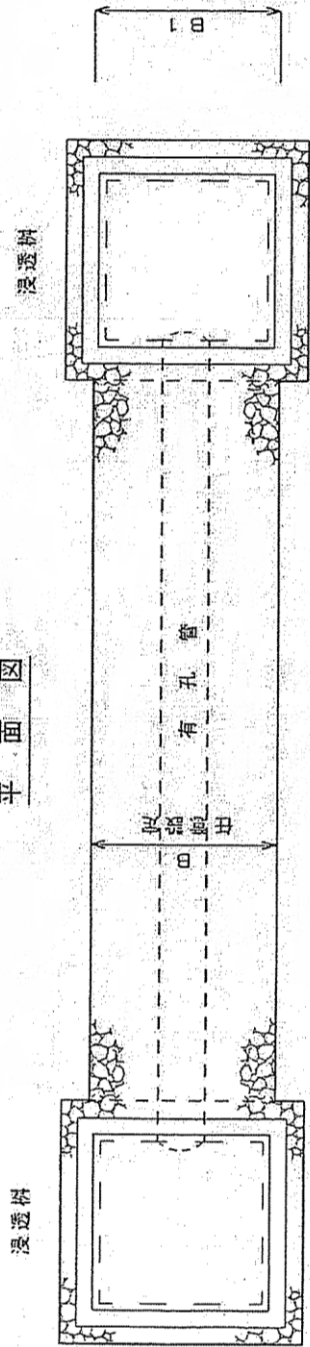
※型枠材はビニールとする

## 基礎仕様



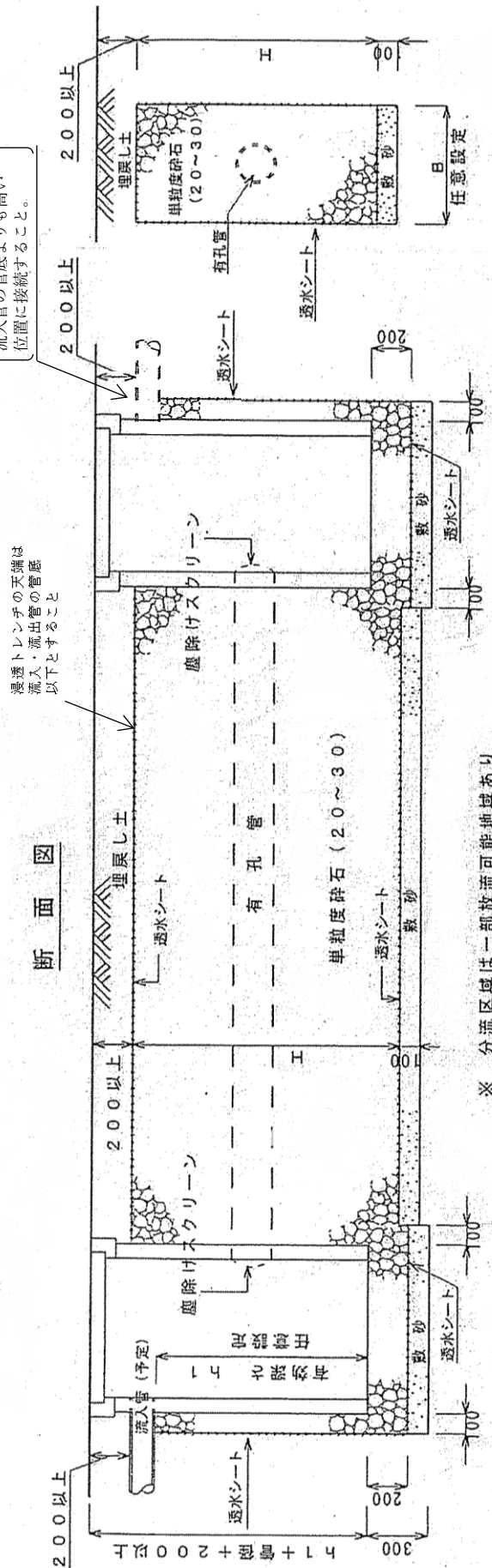
# 雨水浸透柵・浸透トレンチ標準構造図

平面図



トレンチ長  
計算式から

断面図



オーバーフロー管 (公ますへ)  
※流出可能な場合

オーバーフロー管の管底は、  
流入管の管底よりも高い  
位置に接続すること。

浸透トレンチの天端は  
流入・流出管の管底  
以下とすること

※ 分流区域は一部放流可能地域あり